

## 中学校部会テーマ

# 「感動！創る楽しさ 広がる世界」

### 1 はじめに

大会全体主題に STEAM 教育の研究分野としての視点を示した。中学校美術科教科書には SDG s との関連を扱う題材も多く提案されており、現代社会に生きる市民として必要な知恵を学び、未来を創造していく力の育成が求められていることは明確である。生徒には美術科自体が社会との関わりが深い教科だと伝えていきたい。

美術が扱うのは必ずしも崇高で美しいものばかりではない。世界で起きている様々な出来事、大災害や戦争など負の出来事にも美術作家は向き合い表現している。一方で、**身のまわりの「ひと・もの・こと」**も美術を通して関わってみると、全く違った角度から光を当てて学ぶことができ、心震えるようなひらめきや感動を覚える瞬間がある。さらに、自国の文化の独自性を学んだり、多様な作家の作品に触れたりすることで、世界を新鮮に捉え、違った生き方を学ぶことができる。そこには発見や感動がある。

柔らかい感受性をもつ中学生は、直接的・間接的に様々な感動のアンテナをもつ。自分の中に新しい意味や価値をつくりだすために、正解のない答えを探求する。何をどう描き、表現するのかを決めるのは自分自身であることがこの教科の面白さである。その際、その人の内にある引き出しの数や内容が試されると言える。

中学校3年間の学びを改めて問い直す機会としたい。

### 2 主題設定にあたって

多感な中学生期は、建設的な未来への夢を描けるようになる一方で、理想と現実のはざまに悩み、自己嫌悪に陥ったり、不信感をもったりする時期でもある。この時期だからこそ、表現及び鑑賞の活動を通して、夢や目標を形や色彩、材料、光な

どに着目し、創意工夫して表現することにより自己肯定感を高め、自己実現していく意欲や態度を養うことができる。試行錯誤は苦しく悩ましいが、その過程を楽しみ、イメージしたものを形にできたとき、自分の世界が広がったような喜びや達成感が湧き上がってくる。その感覚を味わわせたい。

時代や表現方法が変わっても変わらずに大切にすべきものは確かにあり、その捉え方は多様である。自分の内だけでなく外にある価値観にも触れながら社会との関わりを反映させ、表現や鑑賞の活動を展開していきたい。

学習過程において、一人一人の構想や表現のよさを多様な方法で生徒同士がお互いに情報を共有し、評価し合い、励まし合うことによって、主体的な表現や鑑賞の活動への意欲を高める。それが、生徒の今後の生活においても、造形的な視点をもって身のまわりの様々なものからよさや美しさなどを感じ取ったり、形や色彩、材料や光などによるコミュニケーションを通して多様な文化や考え方に接して思いを巡らせたりすることにつながる。この学びの過程が、心豊かな生活を形成することや自分自身の手で未来を切り拓く、すなわち、未来をつくっていくことであると考え、本主題を設定した。

### 3 研究内容

**課題を踏まえ次のことについて**、指導内容や方法を検証し具体的に工夫改善を行う。

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
  - ・表現と鑑賞について相互の関連を図った指導
  - ・美術の働きや美術文化の実感的な理解を進めるための学習のあり方
- ②指導と評価の一体化
- ③ GIGA スクール構想の実現による一人一台端末の活用
- ④教科等間のつながりを意識した教育課程の編成・実施（カリキュラム・マネジメント）